

令和7年度
全国学力・学習状況調査

○教科に関する調査の結果概要及び改善方向等について

○児童質問調査の結果概要について

令和7年10月

札幌市立西宮の沢小学校

【小学校国語】

教科に関する調査の結果概要及び改善方向等について

本校の概要

【領域】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

◇正答率は、全国平均と同程度だが、やや上回っている。

「情報の扱い方に関する事項」

▼正答率は、全国平均を下回っている。

「我が国の言語文化に関する事項」

▼正答率は、全国平均を下回っている。

「話すこと・聞くこと」

◆正答率は、全国平均と同程度だが、やや下回っている。

「書くこと」

◆正答率は、全国平均と同程度だが、やや下回っている。

「読むこと」

◆正答率は、全国平均と同程度だが、やや下回っている。

今回の調査における課題

▶情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

▶時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。

▶目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること

▶図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

▶目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること。

改善の方向

▶図示などにより語句と語句の関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりする学習活動の充実。

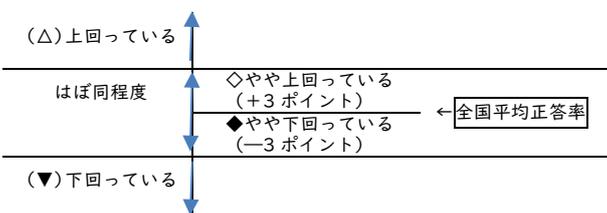
▶若者の言葉が、使える場合と使うべきではない場合があることや、世代によってコミュニケーションに食い違いが起きる場合があることを理解することができるような学習活動の充実。

▶自分が知っていることや予想したこと、疑問に感じていることなどを、聞く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にしたりすることができるような学習活動の充実。

▶図表やグラフを用いた文章と用いていない文章を提示するなどして、図表やグラフの効果を理解することができるような学習活動の充実。

▶文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分に結びつくのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることができるような学習活動の充実。

記号の意味



※「ほぼ同程度」は、全国平均率と比較して±3ポイントの範囲内。

小学校国語	R4	R5	R6	R7
学習指導要領の内容				
言葉の特徴や使い方に関する事項	▼	◇	△	◇
情報の扱い方に関する事項		△	◆	▼
我が国の言語文化に関する事項	▼		▼	▼
話すこと聞くこと	◇	◇	▼	◆
書くこと	◇	◇	△	◆
読むこと	△	◆	◆	◆

【小学校算数】

教科に関する調査の結果概要及び改善方向等について

本校の概要

【領域】

「数と計算」

▼正答率は、全国平均を下回っている。

「図形」

▼正答率は、全国平均を下回っている。

「測定」

▼正答率は、全国平均を下回っている。

「変化と関係」

◆正答率は、全国平均と同程度だが、やや下回っている。

「データの活用」

◆正答率は、全国平均と同程度だが、やや下回っている。

今回の調査における課題

▶異分母の分数の加法の計算をすること。

▶平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図すること。

▶はかりの目盛りを読むこと。

▶伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述すること。

▶棒グラフから、項目間の関係を読み取ること。

改善の方向

▶異分母の分数の加法や減法の計算について、通分の意味を理解するとともに、その計算が確実にできるようになるような学習活動の充実。

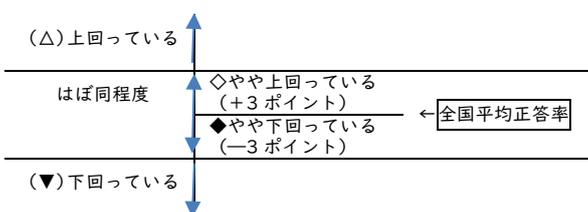
▶図形を作図することができるようにするだけでなく、その手順や方法と図形の性質を関連付けて、図形の性質の理解を深めることができるような学習活動の充実。

▶はかりを用いて重さを測定する際に、最小目盛りの大きさを捉えて、目盛りを読むことができるような学習活動の充実。

▶日常生活の問題を解決するために、複数の情報から場面に基づいて必要な数量を見だし、それらの数量の関係を捉えるとともに、その関係を式や言葉の式に表現する活動の充実。

▶棒グラフからデータの特徴や傾向を読み取る際に、目的に応じて、差を求めたり、何倍かを求めたりすることで、項目間の関係を読み取ることができるような学習活動の充実。

記号の意味



※「ほぼ同程度」は、全国平均率と比較して±3ポイントの範囲内。

小学校算数	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
学習指導要領の内容				
数と計算	◆	△	◆	▽
図形	▽	◇	▽	▽
測定				▽
変化と関係	▽	◆	▽	◆
データの活用	◆	◇	◆	◆

【小学校理科】

教科に関する調査の結果概要及び改善方向等について

本校の概要

【領域】

「エネルギー」を柱とする領域
△正答率は、全国平均を上回っている。

「粒子」を柱とする領域
▼正答率は、全国平均を下回っている。

「生命」を柱とする領域
▼正答率は、全国平均を下回っている。

「地球」を柱とする領域
◇正答率は、全国平均と同程度だが、やや上回っている。

今回の調査における課題

▶電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いていること

▶身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いていること

▶ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いていること

▶レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること

▶赤玉土の粒の大きさによる水のみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現すること

改善の方向

○観察、実験の結果や結論を、図に整理したり、言葉で説明したりするなど、知識と関係付けて理解を深めることができるような学習活動の充実。

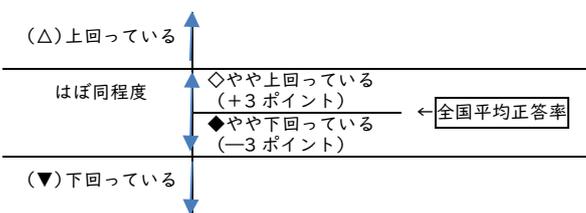
○学習した知識を身の回りで見られる事物・事象と関係付けたり、様々な内容で習得した知識を整理したりして、物質の性質に関する理解を深めることができるような学習活動の充実。

○考えたことを科学的な言葉を使用して表現する活動の充実。

○観察・実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目した問題を見いだす場面を大切に学習活動の充実。

○予想や仮説を基に、条件を制御した場合の結果の見通しについての話し合いを通して、児童自ら条件を制御した計画を立てるような学習活動の充実。

記号の意味



※「ほぼ同程度」は、全国平均率と比較して±3ポイントの範囲内。

小学校理科	H3年度	小学校理科	R4年度	R7年度
学習指導要領の内容		学習指導要領の内容		
物質	◇	「エネルギー」を柱とする領域	△	◆
エネルギー	◇	「粒子」を柱とする領域	▼	▼
生命	▼	「生命」を柱とする領域	▼	▼
地球	▼	「地球」を柱とする領域	◇	◇

「児童質問調査の結果から」

質問事項とその回答から見える、本校児童の傾向と課題

※数字は、「当てはまる」・「どちらかと言えば当てはまる」（肯定的な回答）の合計。

○朝食を毎日食べていますか	・・・88.6%
○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	・・・77.2%
○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	・・・86.0%

→ 例年の結果と比較して、規則正しい生活習慣の定着に改善が見られます。

○学校の授業時間以外の、普段の1日当たりの学習時間が	
1時間以上	・・・35.5%
30分以上1時間未満	・・・36.7%
30分未満	・・・21.5%
全くしない	・・・6.3%

→ 継続的かつ十分な家庭学習の取組の定着に課題が見られます。

○普段の生活の中で幸せな気持ちになることはありますか。	・・・91.1%
○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	・・・91.1%
○自分には、よいところがあると思いますか。	・・・87.4%

→ これらの設問の肯定的な回答のポイントが高いことに関しては、とてもよい傾向であると考えています。できる限り100%に近付くことを目指していきたいと思います。

○学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	・・・86.0%
○道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。	・・・73.4%
○授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	・・・88.6%

→ 本校の子どもたちは「話す・聞く」ことを大切にして、友達と対話的、協働的に学びを深めようとしていることが分かります。

○分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	・・・81.0%
○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができましたか。	・・・83.3%

→ 本校の子どもたちは、意欲をもって主体的に学習に取り組んでいることが分かります。しかし、振り返りの場を大切にしながら学びをつなげる意識の高まりについては課題が見られます。

○人が困っているときは、進んで助けていますか。	・・・93.7%
○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	・・・96.2%

→ 他者に対する心遣い・意識の高さが素晴らしいと感じます。本校の子どもたちのよさの一つです。

総括

国語、算数、理科、質問紙それぞれについて、数値をもとに分析を試みました。これはあくまでも「数字」を読み取っての傾向の話です。数字の向こうには生きた子どもたちがいます。例えば、「日本全国では約94%の子どもたちが毎日朝食を食べている」、という調査結果を見て、「ほとんど全員か、大したものだ。」と考えてしまいがちです。しかし、この数字は今回の調査対象児童約100万人のうち、約6万人の子どもたちは毎日の朝食を摂らずに登校しているということの意味します。今回の調査結果だけを見て一面的に物事を判断せず、数値はあくまでも子どもたちの状況を知る一手段として捉える必要があります。西宮の沢小学校では、本調査の結果を参考にしつつ、目の前にいる子どもたちを見て、適切に関わることを第一に考えて指導を継続します。